

今週のメニュー

■トピックス

◇東北セミナー（盛岡、宇都宮）を開催

■随想

◇chemSHERPA 御紹介

－製品含有化学物質規制について（3）－

一般社団法人産業環境管理協会／

アーティクルマネジメント推進協議会 菊池 英明

■編集後記

■トピックス

◇東北セミナー（盛岡、宇都宮）を開催

7月21日（木）盛岡（マリオス盛岡地域交流センター）において「健康と安心な住まいづくり」、7月22日（金）宇都宮（栃木県総合文化センター）において「省エネ義務化と工務店の生きる道」をテーマにセミナーを(株)日本住宅新聞社主催、弊協会の協賛で開催し、盛岡会場で約40名、宇都宮会場で約50名の参加を頂き、盛況のうちに終了致しました。

東日本大震災以降、エネルギー消費削減の取り組みが加速、特に省エネが遅れている家庭部門でのエネルギー消費削減の取り組みが加速しています。建物の省エネ基準も見直しされ、最新の平成25年度基準では、2020年以降はその基準を満たさない建物は建てられなくなりました。（義務化）また、2020年を目標に50%の住宅をZEH（ネット・エネルギー・ハウス）化することを目指し、大手ハウスメーカー・大手工務店などでは対応商品化が進んでいます。これにより新築住宅については省エネ、断熱性能向上された建物がほとんどとなりますが、既存住宅の省エネ、断熱性能向上には課題が残っています。また、2030年度の新築住宅着工件数が今の約半分の53万戸に減少するとの予測が出ているなか、地方の工務店の生き残りも課題となります。

今回は、昨年に引き続き東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県の県庁所在地である盛岡では高気密・高断熱性な住まいの必要性を、未だ樹脂窓の普及率が低い関東の都市の1つである宇都宮では省エネ義務化に伴い、工務店が取り組むべき課題を中心にセミナーを開催致しました。

盛岡セミナー

講師の北海道大学羽山教授からは、「健康と安全を支える住まいの環境」をテーマに、健康住宅実現のための高気密・高断熱の必要性と各種データを元に説明、また、これからの工務店が取り組むべき課題について講演を頂きました。

講師の高知工科大学田島准教授からは、「住宅の省エネ基準義務化と冷房負荷の低減について」を



盛岡セミナーの様子

テーマに省エネ義務化により、工務店はどのような取り組みを行うべきかについて講演を頂きました。

パネルディスカッションでは住宅の断熱に必須となる開口部に関して YKK AP(株)より樹脂窓、ピーエス(株)より放射冷暖房システムの有用性の紹介が行われ、これからの工務店が取り組むべき課題として、省エネ基準を守るだけでなく、住宅の性能保証、インスペクション（住宅診断）等による差別化の必要性について議論が行われました。

宇都宮セミナー

講師の田島准教授（前出）からは盛岡と同様の内容の講演を頂くとともに、講師の(一社)住宅管理・ストック推進協会徳富代表理事からは「国の政策から考える次世代工務店の姿」をテーマにインスペクションと中古住宅流通に如何に係っていきけるかが生き残りのポイントとの講演を頂きました。

パネルディスカッションでは盛岡同様「工務店の生き残り」をメインテーマに、他社との差別化商材として(株)LIXILより樹脂窓の紹介が行われるとともに、工務店の機能の多角化や地域や施主とのかわり方について活発な議論が行われました。



宇都宮セミナーの様子

一昔前は長期優良住宅の家は随分とハードルの高い住宅という印象を受けていましたが、昨今は、ベースが長期優良住宅の時代になってきたようです。工務店に求められるものも単に優良な住宅を建てるという技術だけでなく、保守、管理、中古住宅の流通といった幅広い知識や情報が求められる時代になりつつあることを改めて認識するセミナーとなりました。

■ 随想

◇chemSHERPA 御紹介

－製品含有化学物質規制について（3）－

一般社団法人産業環境管理協会／

アーティクルマネジメント推進協議会 菊池 英明

[第一回目のメルマガ](#)に、RoHSと言われてロース肉を想像した・・・と書きました。リーチ（REACH）についても、化学物質とは距離のある部門から見れば、麻雀でいう上がりの一歩前のこと？と誤解されかねませんね。それにしても、REACHも麻雀でいうリーチもある意味同じかもしれません。そのころは「ともに（含有させたら/振り込んだら）高くつく...」ということです。

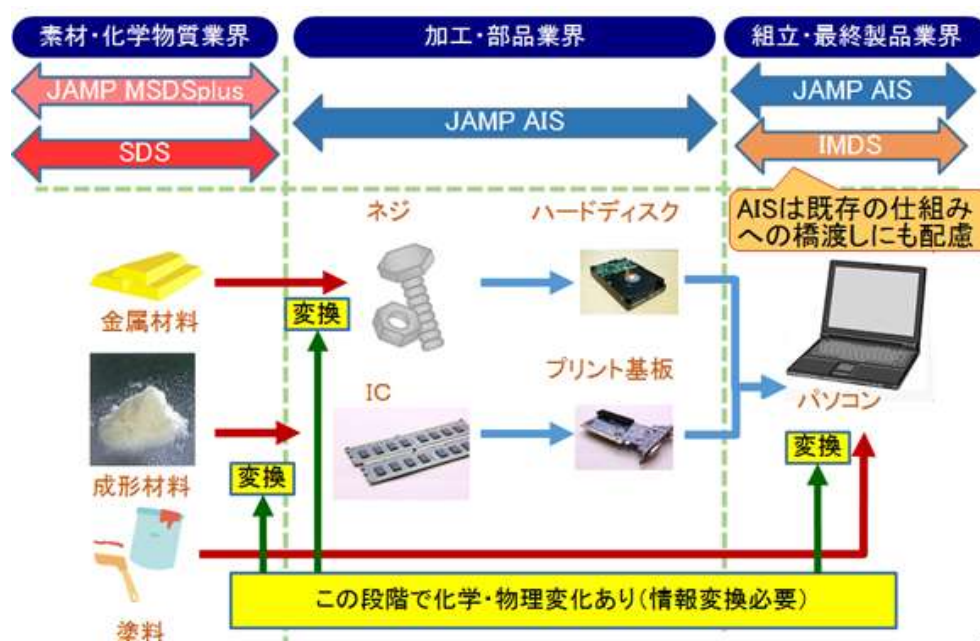
ところで、私は JAMP の事務局をやっている、と申し上げましたが、この JAMP も Joint Article Management Promotion-consortium（アーティクルマネジメント推進協議会）の、大文字をとった略称です。しかしこのネーミングを考えた先輩はきっと、将来への飛躍を祈念してこのように名づけたのではないのかなあと考えたりしています。

ところで JAMP は、「アーティクルが含有する化学物質等の情報を適切に管理しサプラ

イチェーンの中で円滑に開示・伝達するための具体的な仕組みを作り普及させることが、我が国をはじめ各国の産業競争力の向上には不可欠である」との認識に立ち、この理念に賛同する 17 の企業が発起人となって、2006 年 9 月に業界横断の活動推進主体として発足した任意団体です。川上から川中、川下、それに商社までが一致協力して、製品に含まれる化学物質情報を伝達していこうとする、世界的に見てもユニークな業界を横断した有料会員制のボランティアな組織です。現在では約 440 会員、JAMP 様式のツールダウンロード数は 3 万を超えるまでに至りました。

これから JAMP が運営する情報伝達スキームについて少しお話しします。JAMP は、サプライチェーン全体で誤りなく効率的に含有化学物質管理をするために、情報伝達の共通様式としての「化学品用の JAMP MSDSplus」と「成形品用の JAMP AIS」を提供しています。JAMP が規定した管理対象基準（10 の法令、2 業界基準かつ一定の閾値上が対象）にもとづく管理対象物質についての情報を伝達していきます。

製品の流れると、それに対応した JAMP の情報伝達の共通様式を示したものが下図です。川上企業は MSDSplus を、川中・川下企業は AIS の使用を想定しています。



なお、これらを含む JAMP の取組みが ISO26000（国際標準化機構の社会的責任規格）にて紹介されたりしています。

- ①製品に含有する化学物質の伝達すべき情報を記述するデータシートフォーマット（JAMP MSDSplus/AIS）
- ②データシート交換のための IT システムを提供している。
- ③人材育成のための教育、トレーニングの機会を提供している。

JAMP の運用するもう一つのスキームである、新情報伝達スキーム（chemSHERPA/ケムシェルパ）については、次号で紹介していきます。

（続く）

⇒ [メルマガ・バックナンバー](#)

■ 編集後記

暑さはこれからが本番ですが、次の土曜日（7月30日）は「土用の丑の日」です。「土用の丑の日」とくればウナギで、栄養バランスの点から夏バテ防止に効果があると言われています。しかし、ウナギ漁獲量の減少から天然ウナギの価格は高止まりしたままです。一方の養殖ウナギも稚魚のシラスウナギの漁獲量が減少傾向だそうです。

数年前に当時の水産総合研究センターがウナギの完全養殖に成功したと発表しましたが、経済的なプロセスにするにはまだ時間がかかりそうです。財布にも優しいウナギが食べられる日が早く来ることを待ち望んでいます。（ヨッシー）

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 名原 克典

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp